

経過的長期給付積立金の平成27年度第3四半期運用状況

- 経過的長期給付積立金の基本的な考え方
 - 閉鎖年金であることを踏まえ、年金支給のためのキャッシュフローを安定的に確保するため、安定的な元本回収及びインカムゲインが期待できる国内債券での運用
 - 国家公務員共済事業にかかる資産である「貸付金及び投資不動産」(共済独自資産:国内債券と同様の特性を有する)については、国家公務員共済の年金積立金である「退職等年金給付積立金(新3階積立金)及び経過的長期給付積立金(旧3階積立金)」で保有

- 第3四半期の収益率(期間率)は、プラス1.25%(実現収益率)となりました。
- 第3四半期の収益額は、プラス81億円(実現収益額)となりました。
- 第3四半期末の運用資産額は、6,488億円となりました。

※ 年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要ですが、情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。

1. 収益率の状況

	平成26年度	平成27年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
収益率(%)				1.25	-	1.25

(注1) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除しています。

(注2) 平成27年度の各期間は期間率です。

(注3) 平成27年度の収益率は、被用者年金制度が一元化された第3四半期(平成27年10月)以降の収益率です。

(注4) 評価方法は簿価評価としています。

2. 収益額の状況

	平成26年度	平成27年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
収益額(億円)				81	-	81

(注1) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除しています。

(注2) 平成27年度の収益額は、被用者年金制度が一元化された第3四半期(平成27年10月)以降の収益額です。

(注3) 評価方法は簿価評価としています。

(注4) 収益額には、貸付金の受取利息等を含みます。

3. 運用資産額の状況

	平成26年度末	平成27年度			
		第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
国内債券				6,488	-

(注1) 評価方法は簿価評価としています。

(注2) 財政融資資金預託金、共済独自資産(不動産及び貸付金)及び短期資産については、国内債券に含めています。

4. 資産構成割合

	資産構成割合
	平成27年度 第3四半期末
国内債券	100.0%

(注1) 基本ポートフォリオは国内債券100%です。

(注2) 財政融資資金預託金、共済独自資産(不動産及び貸付金)及び短期資産については、国内債券に含めています。

被用者年金一元化法の施行に伴う積立金の概算仕分けについて

H27.9.30時点		H27.10.1時点	
長期給付積立金 (時価)		厚生年金保険給 付積立金(時価)	経過的長期給付 積立金(時価)
7兆8,127億円		7兆1,116億円	7,011億円

(参考)

一元化前の厚生年金(旧厚生年金)の積立比率(概算政府積立比率)
 =平成26年度末の旧厚生年金の積立金の見込み額(164.8兆円)
 ÷平成27年度の旧厚生年金の1・2階支出の見込み額(33.7兆円)
 =4.9年分

国共済の積立金概算仕分け額(厚生年金保険給付積立金)
 =平成27年度の1・2階支出の見込額(1.5兆円)
 ×概算政府積立比率(4.9年)
 =7兆1,116億円